



Data

監督：鈴木雅之
 脚本：岡田道尚
 原作：東野圭吾『 mascarade・ナイト 』（集英社刊）
 出演：木村拓哉／長澤まさみ／小日向文世／梶原善／泉澤祐希／東根作寿英／石川恋／中村アン／田中みな実／石黒賢／沢村一樹／勝村政信／木村佳乃／凰稀かなめ／麻生久美子／高岡早紀／博多華丸／鶴見辰吾／篠井英介

■■■ショートコメント■■■

◆ベストセラー作家・東野圭吾の『 mascarade 』シリーズは累計発行部数470万部を突破し、屈指の人気を誇っている。その第1作を映画化した『 mascarade・ホテル 』（19年）（『シネマ43』251頁）は、興行収入46.4億円の大ヒットになったから、昨今の邦画界は、即第2弾を！

第1作は、何とも“濃い”、キムタクこと木村拓哉と長澤まさみのダブル主演が、第1のポイント。一流ホテルに次々と押し寄せてくる変な客のオンパレードが第2のポイント。そして、その中で如何に犯人をゲットするかが、推理小説としての肝だった。そのレベルは、今ドキのTVドラマの水準を十分超えるものだった。

同作が面白かったのは、刑事の仕事 vs ホテルマンの仕事を対比させた凸凹コンビを際立たせたこと。キャストもスタッフも、そして見どころもストーリーのポイントもそんな第1作をそのまま踏襲した本作は、更にその点が強調されているので、それに注目！

◆殺人犯逮捕のために人を疑うのが刑事だが、お客様を信じ、仮面を剥がないサービスを提供するのがホテルマン。したがって、客のワガママは何でも！それが一流ホテルのサービスだが、私はイマイチそれが納得できない。そして、それは新田浩介刑事（木村拓哉）も同じだから、ストーリーはそんな凸凹コンビの軋轢（？）を軸として展開していくことになる。

12月31日の大晦日、ホテル・コルテシア東京で開催される年越しパーティー、通称「 mascarade・ナイト 」への参加者は約500名。ある日、警察に届いた匿名の密告状によれば、数日前に都内マンションの一室で起きた不可解な殺人事件の犯人が、そこに現れるそうだ。しかし、参加者全員が仮面で仮装する年越しパーティーの中で殺人犯を見つけ出し、逮捕するのは到底不可能！誰もがそう思ったが・・・。

◆小説でも映画でも、ストーリーを面白くするためなら何でもあり。それを実践すること

によって、ドラマとしての面白さを盛り上げている『マスカレード』シリーズでは、チョー一個性的かつチョー怪しい人物が次々とコルテシア東京を訪れてくるのが定番だ。

それが本作では、①日下部篤哉（沢村一樹）、②曾野昌明（勝村政信）、③曾野万智子（木村佳乃）、④狩野妙子（凰稀かなめ）、⑤仲根緑（麻生久美子）、⑥貝塚由里（高岡早紀）、⑦浦辺幹夫（博多華丸）等々だが、これらの客の本性は？そして、これらの客の中に密告状で指摘されている殺人犯はホントにいるの？

殺人犯を含むこれらの客の「仮面」はさまざまだが、新田刑事はタイムリミットの午前0時まで、それらの「仮面」の裏に隠された真実に辿りつくことはできるのだろうか？

◆他方、密告状を受け取った警視庁捜査第一課が総力を上げて犯人逮捕に向かったのは当然。そこで、第1作と同じように、捜査一課管理官の尾崎（篠井英介）は、ホテル・コルテシア東京内に大規模な「現地対策本部」を設け、徹底的な指揮を執ることに。その指揮下に入る稲垣係長（渡辺篤郎）、能勢刑事（小日向文世）、本宮刑事（梶原善）、関根刑事（泉澤祐希）等のスタッフは前作と同じだ。

また、コルテシア東京の総支配人は前作と同じ藤木（石橋凌）だが、山岸尚美（長澤まさみ）は今やコンシェルジュに出世している上、アメリカへの栄転を巡って、彼女のライバルになるフロントクラークの氏原祐作（石黒賢）が登場するので、その出世競争（？）にも注目！

◆以上のように本作の登場人物は多いが、ストーリーは近時の邦画の定番どおり（？）分かりやすいので、しっかり楽しみたい。もちろん、そのストーリー展開の中で、あっと驚く人物像も設定されているので、それはあなた自身の目でしっかりと！

2021（令和3）年9月13日記